

<報道関係各位>

2014年5月16日

一般社団法人 日本化学工業協会

化学企業の環境・安全活動を表彰する第8回「レスポンシブル・ケア賞」各賞が決定**日産化学工業株式会社 富山工場を大賞に選定**

～ビオトープ（生物空間）を作り地域に開放、学びの場としても活用～

一般社団法人 日本化学工業協会（会長：高橋恭平 昭和電工株式会社会長 以下、日化協）は、本日、第8回『レスポンシブル・ケア賞（RC賞）』の受賞者を選定しました。

化学業界は、化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費、廃棄に至る全ライフサイクルにおいて、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、成果を公表し、社会との対話を行う活動、レスポンシブル・ケア（以下、RC）を推進しています。日化協では、化学業界のRCの更なる発展、拡大を図るため、優れた功績あるいは貢献をした事業所、部門、グループまたは個人を毎年表彰するとともに、優れた活動の会員間への共有を行っています。8回目を迎える本年は、活動意欲の向上を目的に賞の設定を見直し、RC大賞（1件）、RC優秀賞（大賞含め最大6件）、RC努力賞（件数制限なし）を新たに設置しました。日化協RC委員会による選考の結果、以下の通り各賞を決定しました。

【RC大賞】（本年より新設 1件）**日産化学工業株式会社 富山工場**

テーマ：「ビオトープを活用した生物多様性への取り組み」

受賞者：鶴田利彦、加藤宗義、島口悟

活動：工場の敷地に隣接する遊休地（6,500㎡）にビオトープ（名称：日産バイオパーク）を作った。近隣住民に開放し憩いの場として提供すると共に、生物多様性の重要性を学ぶ場として近隣の小学校や保育園と一緒に地域固有のメダカ放流等を行った。



日産バイオパーク西本郷

【RC優秀賞】（本年より新設 5件）**旭硝子株式会社 CSR室 ※審査員特別賞**

テーマ：「リスクアセスメントの有効性向上と安全人材の育成を目指した『安全強化活動』」

受賞者：高岡弘幸、田中清志、黒田明寿

活動：職場の第一線の監督者から、「安全中核要員」を選抜して、もれなく危険源を抽出できる等、職場のリスクアセスメントのレベルを上げる活動、各種研修を企画実施して、安全に対する技術とスキルを有する人材を育成する「安全強化活動」を2009年から5年間にわたって進めてきた。

大塚化学株式会社 生産本部 ※審査員特別賞

テーマ：「『安全道場』設立による安全衛生教育の充実」

受賞者：岸野賢士、小笠篤志

活動：従事者の労働安全衛生を確保するための教育の場を「安全道場」と銘打ち2012年に設立。過去の労働災害を負った財産とし二度と同じ過ちをおかさないために、この「安全道場」にて過去災害情報をオープンにし危険を体感したり意見や情報を交わしたりして、これからの安全確保を決意し各員の安全意識の向上を図っている。

<< 本件に関するお問い合わせ先 >>

一般社団法人日本化学工業協会 広報部 鎌田・高水 TEL:03-3297-2555

昭和電工セラミックス株式会社 富山工場

テーマ: 「産廃埋立処分量ゼロへの取り組み」

受賞者: 黒田豊、四家孝一、佐伯達雄、矢田輝明

活動: 2002年より産業廃棄物及び最終埋立処分量の削減に取り組み、2007年にゼロエミッション(最終埋立処分量が総発生量の1%以下)を達成した後、2011年には最終埋立処分量ゼロを達成した。

住化バイエルウレタン株式会社 新居浜プラント

テーマ: 「保安防災&労働安全」

受賞者: 河田格、荒木泰輔、馬場真一、上山信宏、古賀隆幸

活動: 保安防災および労働安全において、製造工程で有毒ガスなど危険物を大量に取り扱うプラントでありながら、1996年以来17年間に及ぶ340万労働時間完全無災害を達成している。

花王カスタマーマーケティング株式会社 経営企画部門 環境推進室

テーマ: 「ダイレクトな環境コミュニケーション活動の推進」

受賞者: 山本裕三、磊晋一郎

活動: 2009年の「花王環境宣言」を受けて消費者、販売店、地域の行政(自治体)とともに地域社会と企業が協働して、「節水、節電、ごみ削減」のための環境コミュニケーション「いっしょにeco」活動を推進している。2012年度については、販売店での消費者啓発を133ヶ所で、自治体の環境イベントを83ヶ所で実施した。また、花王の環境ミュージアムの見学や工場見学の際に、環境配慮型の商品設計の考え方をダイレクトのコミュニケーションで約25,000人に伝えた。

【RC努力賞】(本年より新設 5件)

JNCファイバース株式会社 守山工場

テーマ: 「『水』を通じた地域と企業の『共生』」

受賞者: 藤川正敏、小原健、笹原泰雄

株式会社カネカ 高砂工業所

テーマ: 「マテリアルフローコスト会計(MFCA)導入による総合力を活かした生産ロス改善の仕組み構築」

受賞者: 佐伯恭彦、時本博臣、朝倉朋広、和久田優

三菱化学株式会社 黒崎事業所

テーマ: 「事業所排水の管理改善」

受賞者: 鍋田巧、緒方洋一、原田秀俊、高屋敷一仁、渡邊直文、宮川潤、廣永和美

日本化薬株式会社 厚狭工場

テーマ: 「日本化薬(株)厚狭工場の保安防災の取り組み」

受賞者: 内田和昭、藤山義之、中村義郎、田原賢吾、角田稔、櫻本典子

住友化学株式会社 大分工場

テーマ: 「大分地区におけるRC地域対話を中心とした、地域とのコミュニケーションの深化」

受賞者: 小島美津代

なお、5月29日(木)にパレスホテル東京(東京都千代田区)にて開催する第23回定時総会で各賞受賞者の表彰式を執り行うほか、6月2日(月)開催の『日化協シンポジウム2014』(於:経団連会館/東京都千代田区)にてRC大賞およびRC優秀賞受賞者による受賞講演を行う予定です。

＜ご参考＞

【レスポンシブル・ケア(RC)賞選考基準】

- ・ RCの6本柱(保安防災、労働安全衛生、環境保全、コミュニケーション、化学品管理、物流安全)に関する活動で顕著な成績を残したもの
- ・ 企業内のRC活動の推進にあたり、率先して実施し、顕著な貢献のあったもの
- ・ RCの海外活動に貢献したもの

【レスポンシブル・ケアとは】

地球環境問題や工業化地域の拡大などによる「環境・安全・健康」に関する問題の広がり、また、技術の進歩により発生する新たな問題等に対して、化学物質に関する環境・安全・健康を規制だけで確保していくことは難しくなっています。化学製品を扱う事業者が、環境・安全・健康を確保していくために責任ある自主的な行動をとることが今まで以上に求められる時代となっています。

こうした背景を踏まえて、世界の化学工業界は、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う活動をしています。この活動を“レスポンシブル・ケア”とよんでいます。

【日化協レスポンシブル・ケア委員会とは】

レスポンシブル・ケアは1985年にカナダで誕生しました。1989年に国際化学工業協会協議会(ICCA)が設立され、今やレスポンシブル・ケアは、世界57の国と地域(2014年3月)で展開されています。日本では1995年、化学物質を製造または取り扱う企業74社が中心となり、日化協内に日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)を設立し、それまで各企業が独自に行っていた環境・安全配慮の活動を統一・活発化し、社会の理解を深めていくこととしました。そして、2010年5月にJRCCは日化協レスポンシブル・ケア委員会(RC委員会)となり、2014年3月現在の会員は107社となっています。